

# 令和2年度教育課程研究集会 中学校 外国語

令和2年8月

奈良県教育委員会事務局学校教育課 義務教育係  
指導主事 松本 彩恵

# 動画の視聴にあたって

## ご準備いただくもの

- ・「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料  
中学校外国語」  
(以降、「参考資料」)



国立教育政策研究所のWebページからダウンロードすることもできます。

# 動画の内容

I 外国語科における学習評価の基本的な考え方

II 「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」から

III おわりに

# I 外国語科における学習評価の基本的な考え方

## 新学習指導要領「外国語科」の目標と「英語」の目標

中学校学習指導要領(平成29年3月31日告示) 第2章第9節 外国語

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)知識及び技能	外国語の音声や語彙, 表現, 文法, 言語の働きなどを理解するとともに, これらの知識を, 聞くこと, 読むこと, 話すこと, 書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
(2)思考力・判断力・表現力等	コミュニケーションを行う目的や場面, 状況などに応じて, 日常的な話題や社会的な話題について, 外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり, これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
(3)学びに向かう力・人間性等	外国語の背景にある文化に対する理解を深め, 聞き手, 読み手, 話し手, 書き手に配慮しながら, 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

教科目標

他教科等と共通

### 英語 / 1 目標

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1の(3)に示す資質・能力を育成する。

聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと
ア はっきりと話されれば, 日常的话题について, 必要な情報を聞き取ることができるようにする。 イ ……	ア 日常的话题について, 簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。 イ ……	ア ……		

英語の目標II領域別目標

英語教育の特質  
(CAN-DO形式の目標)

## 5つの領域ごとの観点別評価の考え方

指導要録に記載  
(学年末)

	聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと	観点別 評価	評定
知識・技能							
思考・判断・ 表現							
主体的に 学習に取り組む 態度							

学年末に評価を総括し、指導要録に記載する際に全ての評価情報が揃っていればよく、**各單元ごとに、全ての領域・観点について記録に残す評価を行う必要はない**

ただし、各單元において、3観点をバランスよく見ることは重要

## 学習指導要領・指導要録における「評価」の考え方

指導要録に関して求められるのは、記録に残す総括的評価の部分

教師が行う学習評価

### 診断的評価:

学習前に、当該単元等で必要な知識等を習得しているかを確認する

### 形成的評価:

学習の過程において、個々の生徒や学習集団全体の理解度などを確認する

### 総括的評価(記録に残す評価):

評価規準に即して、学習状況を総括し、観点別評価を行うために残す

※十分な指導を行った上で見取る

通知や事例集等で示す「評価」はこの部分を指す

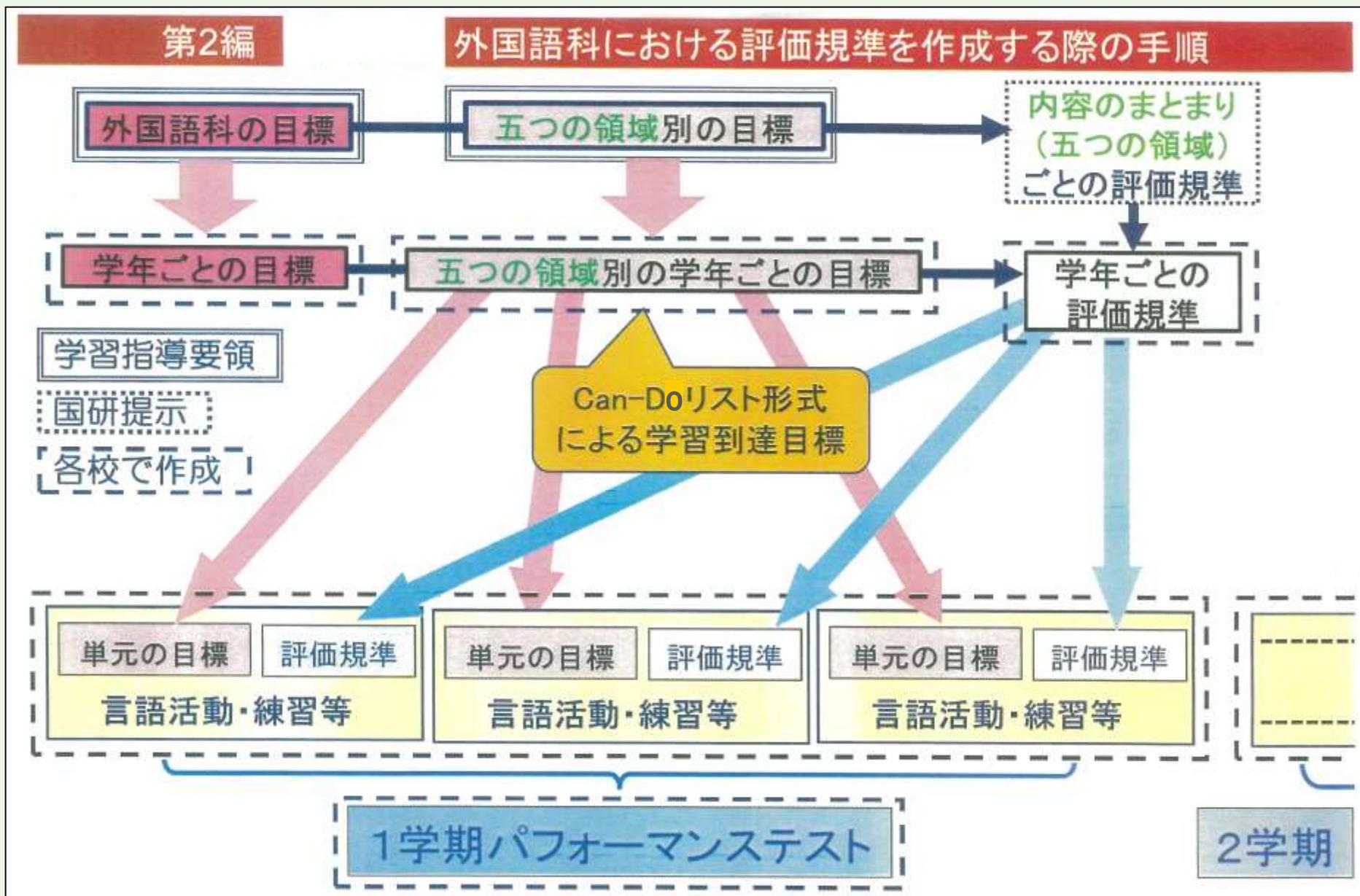
いずれも教師の指導、児童生徒の学習の改善に生かす

児童生徒が行う学習活動

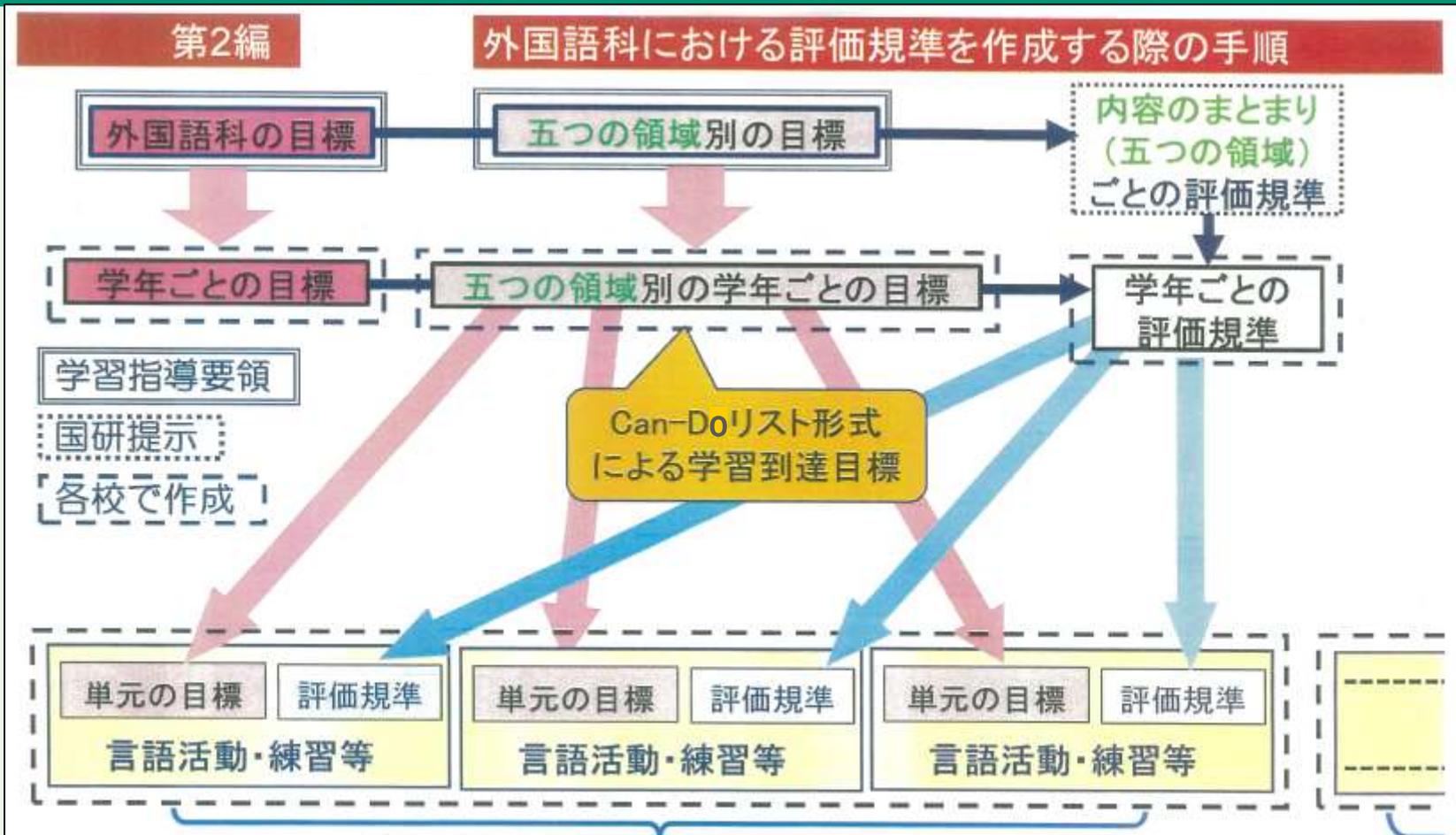
### 自己評価・相互評価

学習活動の一環として、児童生徒が自身のよい点や可能性に気付くことにより、学習意欲の向上を図るものであり、点数化して教師が行う評価に用いることなどは不適切。児童生徒が見通しを立て、振り返りを行っているかなど(自己調整)を教師が確認するための材料の一つとして活用することが考えられるが、その際には、ノートやワークシートに書かれたものだけで評価するのではなく、知識・技能や思考・判断・表現等の状況を踏まえることが必要。

# I 外国語科における学習評価の基本的な考え方



# I 外国語科における学習評価の基本的な考え方



- 外国語科では、中学校学習指導要領において、「五つの領域」ごとに言語（英語）の目標が示されているが、各学年ごとの目標は示されていない。
- そこで、各学校では、「学年ごとの目標」、「五つの領域別の学年ごとの目標」を設定し、「学年ごとの評価規準」や「単元ごとの評価規準」を作成する必要がある。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

第1編 総説

第2編 「内容のまとまりごとの評価規準」を作成  
する際の手順

第3編 単元ごとの学習評価について  
・指導事例(5事例)の紹介



	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
聞くこと	<p>[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。</p> <p>[技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について、はっきりと話された文章等を聞いて、その内容を捉える技能を身に付けている。</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、はっきりと話されている。</p>	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮している。</p>	話すこと(発表)	<p>[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。</p> <p>[技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて話す技能を身に付けている。</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話している。</p>	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて話そうとしている。</p>
読むこと	<p>[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。</p> <p>[技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について書かれた短い文章等を読んで、その内容を捉える技能を身に付けている。</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて書かれた短い文章等を読んで、必要な情報や概要、要点を捉えている。</p>	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、書き手に配慮しながら、主体的に英語で書かれたことを読もうとしている。</p>	書くこと	<p>[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。</p> <p>[技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、またはそれらを正確に用いて書く技能を身に付けている。</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話している。</p>	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて書くようとしている。</p>
話すこと(やり取り)	<p>[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。</p> <p>[技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝え合う技能を身に付けている。</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝え合っている。</p>	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に英語を用いて話そうとしている。</p>				

「知識・技能」  
英語使用の正確さをみる。

指導する単元で扱う言語材料が提示された状況で、それを使って事実や自分の考え、気持ちなどを話したり書いたりすることができるか否かを評価するのではなく、使用する言語材料の提示がない状況においても、それらを用いて事実や自分の考えなどを話したり書いたりできる技能を身に付けているか否かを評価する。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
聞くこと	[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について、はっきりと話された文章等を聞いて、その内容を捉える技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、はっきりと話される文章を聞いて、必要な情報や概要、要点を捉えている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に英語で話されることを聞こうとしている。	[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて話す技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて話している。
読むこと	[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について書かれた短い文章等を読んで、その内容を捉える技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について書かれた短い文章を読んで、必要な情報や概要、要点を捉えている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて書こうとしている。		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、書いている。
話すこと(やり取り)	[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝え合う技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、伝え合っている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に英語を用いて伝え合おうとしている。		

「思考・判断・表現」の観点で内容面の適切さを判断し得るような、コミュニケーションの目的・場面・状況のある言語活動を設定する必要がある。

「思考・判断・表現」  
内容面の適切さをみる。

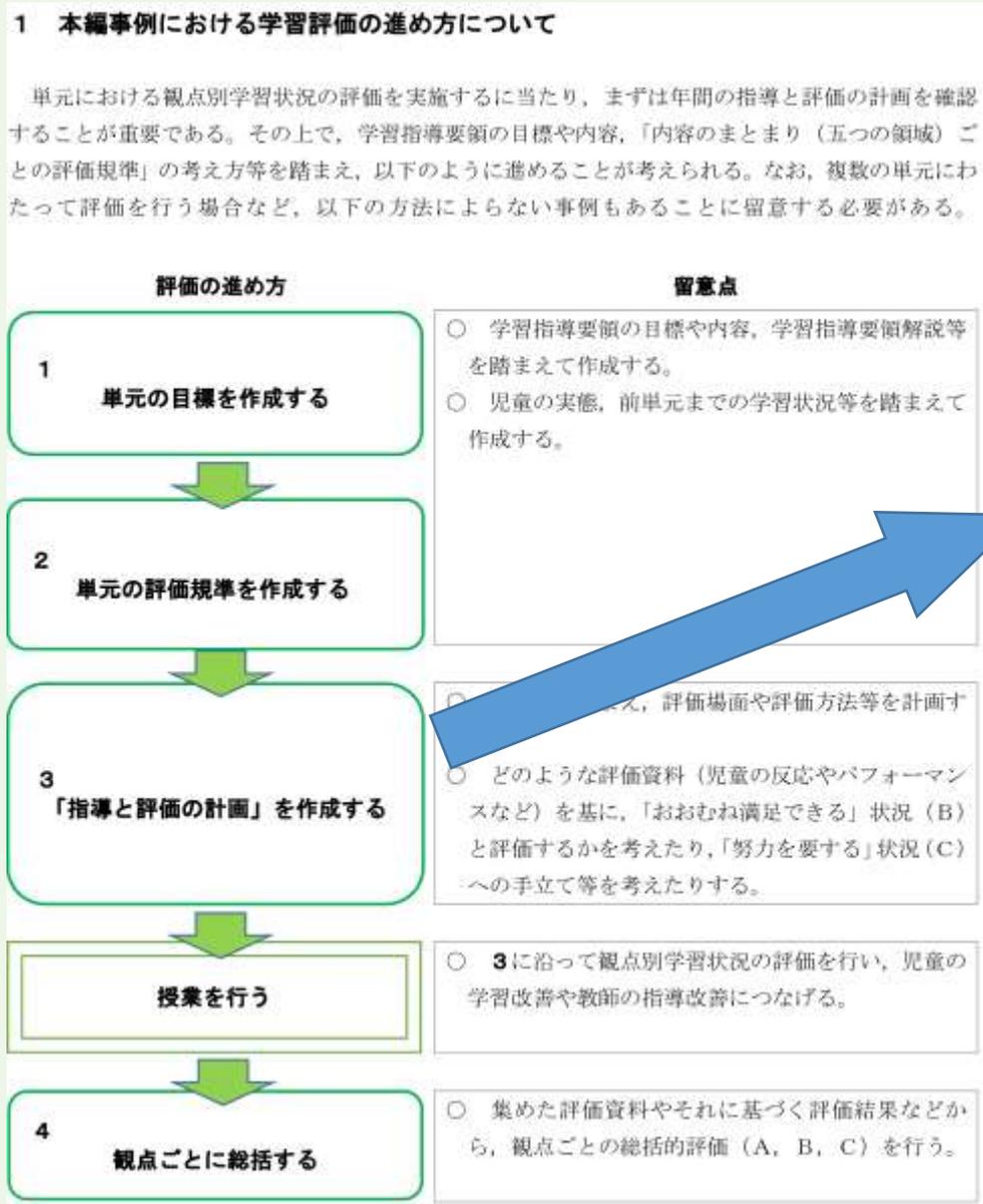
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について、はっきりと話された文章等を聞いて、その内容を捉える技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、はっきりと話される文章を聞いて、必要な情報や概要、要点を捉えている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に英語で話されることを聞こうとしている。
読むこと	[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について書かれた短い文章等を読んで、その内容を捉える技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について書かれた短い文章を読んで、必要な情報や概要、要点を捉えている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、書き手に配慮しながら、主体的に英語で書かれたことを読もうとしている。
話すこと(やり取り)	[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝え合う技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、伝え合っている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的に英語を用いて伝え合おうとしている。

話すこと(発表)	[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて話す技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話している。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて話そうとしている。
書くこと	[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、またはそれらを正確に用いて書く技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、書いている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて書こうとしている。

「主体的に学習に取り組む態度」

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている状況をみる。

第3編 P.37



## 評価の進め方

- ① 単元の目標を作成する
  - ② 単元の評価規準を作成する
  - ③ 「指導と評価の計画」を作成する
  - ④ 観点ごとに総括する
- ### 授業を行う

### 第3編 P.45～46 各事例概要一覧

- 事例1 複数単元を通した「話すこと[やり取り]」における各観点の一体的な評価
- 事例2 「読むこと」における「思考・判断・表現」の評価
- 事例3 複数単元を通した「聞くこと」における「思考・判断・表現」の評価
- 事例4 特定の言語材料に焦点を当てた「知識・技能」の評価
- 事例5 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

#### 事例の特徴

- 単元に応じた評価規準の設定から評価の総括までとともに、生徒の学習改善及び教師の指導改善までの一連の流れを示している。
- 観点別の学習状況について評価する時期や場面の精選について示している。
- 評価方法の工夫について示している。

## 第3編 P.47 事例I

外国語科 事例1  
 キーワード 複数単元を通した「話すこと [やり取り]」における各観点の一体的な評価

単元名  
 読んだことについて、事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合う（第3学年 1学期）

内容のまとめり  
 「話すこと [やり取り]」ウ

話すこと  
 [やり取り]

### 1 「話すこと [やり取り]」における第3学年の目標及び評価規準

#### (1) 目標

日常的な話題や社会的な話題に関して、聞いたり、読んだりしたことについて事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝え合うことができる。

※ [やり取り] の目標「ア」「イ」「ウ」ごとに目標を設定することも考えられる。

#### (2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した言語材料の特徴やきまりを理解している。</li> <li>実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、事実や自分の考え、気持ちなどを簡単な語句や文を用いて伝え合う技能を身に付けている。</li> </ul>	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝え合っている。	主体的に学習に取り組む態度 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてやり取りしようとしている。

記録に残す評価

学年の目標及び  
 学年の評価規準

#### 2 1課から3課を通して育てたい「話すこと [やり取り]」の能力

日常的な話題や社会的な話題（野菜の歴史、世界遺産、リサイクルなど）について書かれた文章を読み、読んだことを基に考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合うことができる。

(参考) 1課から3課をまとめて目標及び評価規準を設定する場合、以下のようになる。

##### ■目標

友達の見解等を踏まえた自分の考えや感想などをまとめるために、日常的な話題や社会的な話題（野菜の歴史、世界遺産、リサイクルなど）について書かれた文章を読み、読んだことを基に考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合うことができる。

##### ■評価規準（話すこと [やり取り] の評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>[知識] 受け身や現在完了形などの特徴や決まりを理解している。</p> <p>[技能] 日常的な話題や社会的な話題（野菜の歴史、世界遺産、リサイクルなど）について考えたことや感じたこと、その理由などを、受け身や現在完了形などを用いて伝え合う技能を身に付けている。</p>	<p>友達の見解等を踏まえた自分の考えや感想などをまとめるために、日常的な話題や社会的な話題（野菜の歴史、世界遺産、リサイクルなど）に関して読んだことについて考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合っている。</p>	<p>友達の見解等を踏まえた自分の考えや感想などをまとめるために、日常的な話題や社会的な話題（野菜の歴史、世界遺産、リサイクルなど）に関して読んだことについて考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合おうとしている。</p>

※実際の評価に当たっては、他領域（「読むこと」など）の評価規準を設定することも考えられる。

第3編 P.47 事例I

単元の目標と評価規準

3 単元の目標と評価規準

※例として1課の目標と評価規準を示す。2課と3課については、扱う言語材料と話題等が変わるが他の部分は1課と同じ。

目的

(1) 目標

友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、野菜の歴史について書かれた英文を読み、読んだことを基に考えたことや感じたことを、英文を引用したり内容に言及したりしながら伝え合うことができる。

※以下、「英文を引用したり内容を言及したりする」ということについて、「英文を引用したり内容を言及したりする」という。

話すこと  
[やり取り]

話題及び内容

(2) 評価規準（「話すこと [やり取り]」）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>受け身や現在完了形の特徴やきまり、引用するための表現を理解している。</li> <li>野菜の歴史について考えたことや感じたことなどを、受け身や現在完了形などを用いて伝え合う技能を身に付けている。</li> </ul>	友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、社会的な話題（野菜の歴史）に関して読んだことについて、考えたことや感じたことなどを、英文を引用するなどして伝え合っている。	友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、社会的な話題（野菜の歴史）に関して読んだことについて、考えたことや感じたことなどを、英文を引用するなどして伝え合おうとしている。

※実際の指導と評価に当たっては、他の領域（「読むこと」など）の評価規準も設定することが考えられる。

## 第3編 P.47 事例I

### 3 単元の目標と評価規準

※例として1課の目標と評価規準を示す。2課と3課については、扱う言語材料と話題等が変わるが他の部分は1課と同じになる。

#### (1) 目標

友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、野菜の歴史について書かれた英文を読み、読んだことを基に考えたことや感じたことを、英文を引用したり内容に言及したりしながら伝え合うことができる。

※以下、「英文を引用したり内容に言及したりする」を「英文を引用するなど」という。

#### (2) 評価規準（「話すこと [やり取り]」の評価規準）

### 目的・場面・状況

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識	・受け身や現在完了形の特徴やきまり、引用するための表現を理解している。	友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、社会的な話題（野菜の歴史）	友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、社会的な話題（野菜の歴史）
技能	・野菜の歴史について考えたことや感じたことなどを、受け身や現在完了形などを用いて伝え合う技能を身に付けている。	に関して読んだことについて、考えたことや感じたことなどを、英文を引用するなどして伝え合っている。	に関して読んだことについて、考えたことや感じたことなどを、英文を引用するなどして伝え合おうとしている。

※実際の指導と評価に当たっては、他の領域（「読むこと」など）の評価規準も設定することが考えられる。

### I 課の指導と評価の計画

#### 観点別の学習状況について評価する時期や場面を精選

#### 評価の時期は「単元の終末」と「後日」

記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。活動させているだけにならないよう十分留意する。

記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。活動させているだけにならないよう十分留意する。

時間	ねらい	知	思	態	評価
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の目標を理解する</li> <li>教科書の対話を読むことや感じたことなど</li> <li>①自己目標を設定する</li> <li>②教科書の対話を読むことや感じたことなど</li> <li>③対話文で使われている意味を理解する。</li> <li>④英文を引用するた</li> <li>「～」 According to</li> <li>⑤再度、対話文の内容などを別のペアで</li> <li>⑥ペアで話した内容を</li> </ul>				
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>対話文を読み、引用したことなどを伝え</li> <li>①受け身を使って作成</li> <li>読み、引用しながらの英文を使ってペア</li> <li>②再度、対話文の内容などを別のペアで</li> <li>③ペアで話した内容を</li> </ul>				
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>対話文を読み、引用することなどを伝え</li> <li>①教科書の対話文を</li> <li>考えや感じたこと</li> <li>②対話文で使われて</li> <li>定文)の構造と意</li> <li>③前時までに学んだ</li> <li>度、対話文の内容</li> <li>などを別のペアで</li> <li>④ペアで話した内容を</li> </ul>				
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>対話文を読み、引用したことなどを伝え</li> <li>①現在完了形(完了用</li> <li>とは別の対話文を</li> </ul>				
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>①現在完了形(完了用)の否定文、疑問文)を使って作成した教科書とは別の対話文や文章を読み、引用しながら考えたことや感じたことなどをペアで伝え合う。</li> <li>※②以降は、第3時の③、④と同じ。</li> </ul>				
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビクチャー・カードを使い、受け身や現在完了形などを正しく用いながら、教師やALTに教科書の全ての本文内容について説明する。</li> <li>①ペアになり、相手を教師やALTにみたてで、教科書本文内容についてビクチャー・カードを使いながら説明する。</li> <li>②一人一人が教師やALTに教科書本文内容を説明する。</li> </ul>				・[注] ①、②参照
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>初見の文章を読み、引用するなどしながら考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合う。</li> <li>①スピーチ原稿を読み、考えなどをペアで伝え合う。</li> <li>②ペアで話した内容を書く。</li> <li>③自己目標の達成状況を振り返り、次の課題を明確にする。</li> </ul>				・[注] ③参照
後日	パフォーマンステスト				○ ○ ○ 本事例「5」参照

①教師は1回につき4人(2ペア)を観察し、「知識・技能」の評価規準に照らして、受け身や現在完了形を使用しなくてはならない文脈で用いることができるかを観察する。  
 ②本事例では「話すこと[やり取り]」であるため当該領域の言語活動により本単元で扱う言語材料を用いて自分の考えなどを伝え合う技能を身に付けているか否かを評価する。他方、他の領域に焦点を当てた単元の場合、当該領域の言語活動により当該単元で扱う言語材料に関する「知識・技能」を評価することになる(「読むこと」は事例2、「聞くこと」は事例3、「書くこと」は事例4をそれぞれ参照)。  
 ③以下のとおり評価する。  
 ・初見の文章を読み、読んだことについて、引用するなどしながら考えたことや感じたことなどをペアで3分程度伝え合う。その後、ペアを複数回変え、やり取りをさせる。  
 ・教師は1回につき、4人(2ペア)を観察し、本課の評価規準(「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」)に照らして評価する。十分な発話がない生徒がいた場合には、新しいペアにおけるやり取りを観察する。  
 ・第8時の観察の結果を本課の評価情報として簡易記録に残すようにする。「知識・技能」の評価については、現在完了形や受け身の使用がみられなかった場合、第7時の観察の結果を加味することが考えられる。また、「主体的に学習に取り組む態度」の評価については第8時だけに限らず日々の授業における言語活動への取組状況を踏査する。(事例5参照)



# I 課の指導と評価の計画

(参考) I 課の指導と評価の計画

以下の表中「○」が付されている時間は極力全員の学習状況を記録に残すよう努めるが、確実に全員分の記録を残すのは学期末のパフォーマンステスト及びペーパーテストの機会とする。なお、○が付されていない授業においても、指導の改善や生徒の学習改善に生かすために、生徒の学習状況(例:受け身を使って考えを話すことができているか、引用しながら考えを話しているか)を確認することが重要である。確認結果は、単元や学期末の評価を総括する際に参考にすることができる。

時間	ねらい(■), 言語活動等(丸数字)	知	思	態
	■単元の目標を理解する。 ■教科書の対話文を読み、引用するなどしながら考えたことや感じたことなどを伝え合う。			

や感じたことなどをペアで伝え合う。

※②以降は第3時の③、④と同じ。

■教科書の対話文とレポート(第3時で読んだ対話文の続き)を読み、引用するなどしながら考えたことや感じたことなどを伝え合う。

①教科書の対話文とレポートを読み、引用しながら自分の

記録に残す評価に生かすこと

**評価の時期は「単元の終末」と「後日」**

## 二つの評価時期で評価する場合の留意点

- 特定の言語材料が使用されなかった場合
  - 目的・場面・状況の設定を工夫する。
  - 特定の言語材料が確実に使用されるような機会を別途設定することも考えられる。

7	■ピクチャー・カードを使い、 <u>受け身や現在完了形などを正しく用いながら</u> 、教師やALTに教科書の全ての本文内容について説明する。 ①ペアになり、相手を教師やALTにみたてて、教科書本文内容についてピクチャー・カードを使いながら説明する。 ②一人一人が教師やALTに教科書本文内容を説明する。	○			・「注」①、②参照
---	--	---	--	--	-----------



P. 51～55

5 パフォーマンステストについて

6 観点別学習状況の評価の進め方

7 指導について

## 特定の言語材料に焦点を当てた「知識・技能」の評価

外国語科 事例4

キーワード 特定の言語材料に焦点を当てた「知識・技能」の評価

単元名

外国の人に自分たちの学校を紹介しよう（人称及び現在進行形）（第1学年 3学期）

内容のまとめ

主に「書くこと」ア

### 1 「知識・技能」の評価に関する考え方

「知識・技能」について、「聞くこと」、「読むこと」は、①「知識・技能」を問う問題や発問等に正答できるかという基準で評価し（事例2、3参照）、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」は、②発話や筆記において英語使用が正確かという基準で評価する（事例1参照）。

②の主な評価場面である単元終末の言語活動や学期末等のパフォーマンステストでは、当該単元等で指導した言語材料（以下「特定の言語材料」という。）が必然的に使用されるよう、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを工夫することが重要である。当該工夫により、特定の言語材料の使用を促し、当該言語材料を含め既習表現の使用の正確さを評価する。しかし、そのように工夫しても特定の言語材料を使用させることが難しい場合も考えられる。そこで、本事例では、特定の言語材料を実際のコミュニケーションの場面において正確に使用できるか否か（主に「技能」の側面）の評価方法を、「書くこと」を例に示す。また、英語使用が正確であれば言語材料の知識も有していると判断することが可能であることから、「英語使用の正確さ」を評価することにより、「使うことができる」といった「技能」の側面だけではなく、「理解している」といった「知識」の側面についても一体的に評価することができると考える。一方で、「知識」だけに焦点を当てて評価することも可能なことから、本事例においては、「知識」に焦点を当て、それを活用できる程度に理解しているかについて評価する方法も併せて示す。なお、本事例が取り上げている領域は「書くこと」であるが、「5」で示している「主に「知識」を評価する問題」は、「書くこと」に限定した「知識」ではない。

## 第3編 P.71～78 事例4

特定の言語材料に焦点を当てた「知識・技能」の評価

## 5 ペーパーテストやワークシートの作成に当たって

「4 指導と評価の計画」で示した後日行うペーパーテストやワークシートで出題する問題について、問題例や作成方法等を以下に示す。

## (1) ペーパーテストやワークシートの問題例

問 題	出題の種類, ねらい (・)
問題例①	主に「知識」を評価する問題 ・ 文脈に応じて特定の言語材料を正しく選択できるかを評価する。
問題例②	主に「知識」を評価する問題 ・ 文脈に応じて特定の言語材料の文に正しく書き換えることができるかを評価する。
問題例③	主に「技能」を評価する問題 ・ 文脈に応じて、主に特定の言語材料を正しく使って文（の一部）を書くことができるかを評価する。
問題例④	主に「技能」を評価する問題 ・ 特定の言語材料の使用を促した上で、場面に応じて、当該言語材料を正しく使って文（短文）を書くことができるかを評価する。
問題例⑤	主に「技能」を評価する問題 ・ 特定の言語材料の使用を促した上で、条件に沿って当該言語材料を含む既習の表現を使って複数の文を正しく書くことができるかを評価する問題

## 特定の言語材料に焦点を当てた「知識・技能」の評価

### (2) ペーパーテストやワークシートの問題の作成方法

テスト問題を作成する際、以下の項目を確認しながら進めることが大切である。

- 評価する言語材料を何にするかを定める。
- 出題のねらい（主として評価するのは、「知識」か「技能」か）を定める。
- 文脈や使用場面がある問題を作成する。

※以下に、文脈や使用場面がない問題例を示す。

- 解答する際に使用する言語材料を明示していないかどうかを確認する。
- 出題方法（多肢選択式、記述式等）を決める
- 評価する対象の言語材料以外の言語材料における誤りで減点したり誤答としたりといった採点基準になっていないかを確認する。
- 「知識・技能」の問題の配点が高くなりすぎていないかを確認する。

#### (参考) 文脈や使用場面がない問題例

例1：以下の文から1カ所誤りを探して、現在進行形の文に訂正しなさい。

I'm just watch TV.

例2：以下の単語を並べ替えて正しい文を作りなさい。文頭に来る単語も小文字になっています。

(ア playing イ are ウ now エ we オ basketball )

# 中学校第三学年用学習教材の配布について

文部科学省初等中等教育局教育課程課通知(令和2年7月16日付)

